

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和5年度
意見交換会(第2回)**

福島県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2023年9月11日

● 第1回意見交換会後の調整状況の報告

- 第1回意見交換会では、本年度の実施方針として、以下を提示。**副代表団体の皆様から概ねの同意を得た**ところ。

【今年度の実施方針】

- ふるさとTFDは、**復興庁事業（Fw:東北 Fan Meeting）**で試行。
試行結果を踏まえた**ひな型**を各団体に提供、各団体で試行実施。
 - B・Cグループの提案は、「**体験**」と「**話し合いの場**」に分解。
「体験」は各団体等が提供し、その参加者を軸に「**話し合いの場**」への参加を呼びかけ。
 - 昨年度参加者を巻き込んだ**運営委員会を設置**。具体的なプログラムを検討。
- これを受けて、昨年度の実践の場参加者等に声掛けを行い、**7月18日（火）に「福島・未来会議（仮称）運営委員会」を設立**。
 - 今年度の企画案のテーマを“**「ふるさと」をテーマに、目指したい、目指すべき未来の姿を考える**”とし、**同運営委員会において、今年度の企画案について検討**を進めている。

● 「福島・未来会議（仮称）運営委員会」について

【運営委員会メンバー】

- 主催者であるJヴィレッジ（2名）、協議会事務局（4名）に加え、副代表団体の皆様（5名）、昨年度の実践の場参加学生からの希望者（6名）、その他副代表団体から推薦があった者（2名）で構成。

	所属団体	氏名		所属団体	氏名
昨年度参加学生	東京大学 学生	－	か副代表の表推薦団体	富岡町役場企画課企画政策係 主事	畠山 侑也
	東京大学 学生	－		楢葉町 地域おこし協力隊	入江 健太
	長崎大学 学生	－	主催	株式会社Jヴィレッジ ホスピタリティ事業部 サービス企画グループ 課長	猪狩 安博
	福島工業高等専門学校 学生	－		株式会社Jヴィレッジ ホスピタリティ事業部 サービス企画グループ	高野 雅輝
	福島大学 学生	－	事務局	復興庁復興知見班 参事官補佐	大島 史也
	福島大学 学生	－		復興庁復興知見班 政策調査官	早川 勝重
副代表団体	一社）ふくしま連携復興センター 代表理事	天野 和彦		「新しい東北」官民連携推進協議会事務局（(株)JTB総合研究所）	後藤 直哉
	福島県庁 企画調整部企画調整課 副主査	伊藤 隆之		「新しい東北」官民連携推進協議会事務局（(株)JTB総合研究所）	竹内 信悟
	福島大学 地域未来デザインセンター センター長	鈴木 典夫			
	福島大学 地域未来デザインセンター 特任准教授	藤室 玲治			
	東邦銀行 法人コンサルティング部 公務・地域商社事業課長	村上 崇広			

【運営委員会開催状況】

- 第2回までの会議において、本年度のおおまかな企画案等について議論

回	日時	議題	議論の結論（次回までの宿題）
第1回	7月18日（火） 18：00～19:00	○ 今年度の企画の進め方に関する説明 ○ プログラム案やアウトプットイメージに関する議論 ○ 次回会議に向けたチーム分け 等	（宿題）チームごとにプログラム内容やアウトプットイメージを議論し、第2回運営委員会において発表
第2回	8月24日（木） 17:00～19:00	○ 各チームからの発表、議論（プログラム案、アウトプットイメージ）	○ おおまかなプログラム案の決定（次ページ以降） （宿題）プログラムの名称案や、初日のTFDに招待できる、招待したい方を検討、チラシ案についての確認

● 運営委員会での議論の状況（１）アウトプットイメージ

○ 第２回運営委員会では、３グループの発表をもとに、プログラム案やアウトプットイメージについて議論。

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
アウトプット	・懇親会、パーティー	・ポスターセッション（福島で見つけた“魅力的な姿（＝愛）”を伝え合う）	・ビジネスプランの発表
説明	<ul style="list-style-type: none"> 仮題：福島から世界へ「日本のふるさと」 浜通りは、誰にとってのどんな「ふるさと」だったか、これからは誰にとってのどんな「ふるさと」になるか、私たちは浜通りにどう関わるかを考える 移住定住を促進している方は、自分たちとやりたいことのベクトルが似ている。 堅い雰囲気ではなく、懇親会やパーティーのような雑談等ができる感じが良い 聞いている方からのフィードバックをもらえるような形を取りたい（post itなど）。 	<ul style="list-style-type: none"> 福島を既に好きな人にアプローチ、更に愛を深めてもらい、「そんなに愛されている場所なんだ」というところから風評払拭のスタートにする 発表は個人によるポスターセッション形式 ✓ ３グループに分かれ、別グループが発表する時間帯に、参加者も発表を聞く ✓ 魅力的と感じた発表には“愛ポイント”を投票 参加者以外（関わっていただいた事業者、地元の人など）にも発表内容を伝えたい 	<ul style="list-style-type: none"> 今回のプログラムだけに留まらず、その後も関係人口となり継続的に活動が行われることを目指す 学生が発表して実現性が高いものとしてビジネスプランを設定 浜通り全域の自治体政策企画担当者および民間事業者を招待
①何を？ ②誰を？ ③形式は？	① 移住定住関係？ ② ？ ③ 懇親会やパーティーのような雑談等ができる感じ	① 福島の魅力的な姿（＝愛） ② 参加者、関わっていただいた事業者、地元の人 ③ ポスターセッション	① ビジネスプラン ② 自治体政策企画担当者および民間事業者 ③ プレゼンテーション？

✓ **Bグループのアウトプット案をベース**として、企画を設計する

・プログラム１・２日目の交流の中で、**福島の魅力的な姿（＝愛、ふるさと愛）**を個々人が見つけ出し、**写真やスケッチブック**を用いてまとめ、ポスターセッションで発表

・プログラム参加者や、協力事業者、地元の方から、直接またはポストイットによるフィードバックをもらうとともに、参加者が共感した際には「愛」ポイントステッカー等を貼付する

✓ **プログラム終了後にも、継続的に関係人口を生み出すような事後展開**についても引き続き検討【論点２】

● 運営委員会による議論の状況（２）実施スケジュール

赤：独自の提案、青：複数グループに共通する提案

1日目	Aグループ	Bグループ	Cグループ	話し合いの結果（大筋）
浜通りへの移動まで	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戻れない(戻らない)方とのお話 ・ 浜通りへ移動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福島市から移動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浜通りへ移動 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 出発（集合）場所を福島市内とするか、浜通りとするかは要検討 ◆ 浜通りに戻れない（戻らない）方のふるさと愛についても伺いたい
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福島市内の復興住宅に伺いたい。 ・ 浜通りに移動していく道中に伺えるのではないか。 			
浜通りでのプログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戻った方、移住者とのお話 ・ TFD(@Jヴィレッジ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Welcome体験（ワイン畑でのボランティアなど） ・ 各者が出合わせたい人から、簡単な取り組み紹介 ・ TFD（上記の人と交えて実施） ・ 古民家（川内村 cafe秋風舎など）で交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・ TFD ・ 移住・定住促進の実例についてケーススタディ ・ チーム分け ・ 2日目アポ取り 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各者が出合わせたい人（浜通りに戻った人、移住した人など）の話を聞く ◆ 参加者と、上記の人を交えたふるさとTFDを実施 ◆ 翌日に訪問したい人、事業者を決め、2日目に行動を共にするグループ分けを行う
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 午前に話した方との違い、対比。 ・ 移住定住を促進している方々、浜通り立地の企業を含めた様々な立場の方をお呼びしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何らかの体験を通じてアイスブレイク（皆が打ち解けあう時間を作る） ・ 2日目へ向けた下準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マグネット形式（前回盛り上がった） 	
宿泊	<ul style="list-style-type: none"> ・ 晩御飯を一緒に食べる ・ Jヴィレッジにて宿泊 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊は合宿所のような場所 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展望の宿 天神 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 宿泊場所は行程をふまえて川内村のロッジまたはJヴィレッジで検討 ◆ できるだけ長時間議論できる場を作る
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食を交えた交流を行うことでより深いお話を伺えるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 懇親会を行いたい（夕食時含め） ・ お風呂は川内の湯に入りたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太平洋展望露天風呂（日没前か翌朝） ・ BBQまたは宴会場で懇親会 	

● 運営委員会による議論の状況（２）実施スケジュール

赤：独自の提案、青：複数グループに共通する提案

2日目	Aグループ	Bグループ	Cグループ	話し合いの結果（大筋）
AM	・ グループに分かれて行動	・ フリータイム	・ フリーフィールドワーク	◆ 少人数グループごとに会いたい人へ会いに行く ◆ 発見した「ふるさと愛」を写真やスケッチ等で記録
説明	・ TFDで話した方が所属している団体を訪問する。 ・ 1日目の作業を共にしたところも選べる。	・ 1日目の方の活動場所に訪問 ✓ 少人数グループでの訪問 ✓ 3人から4人に訪問 ✓ 発見した“魅力的な姿（＝愛）”をスマホ等で撮影、スケッチブックに記録（→写真は事務局に送付し、プリントアウト）	・ 自由に話を聞きに行く／体験する	
PM	・ グループに分かれて行動	・ フリータイム	・ フリーフィールドワーク	◆ 同上
説明	・ 檜葉のこどもたちのところに伺えるようにする。 ・ 1日で関係が途切れるのは勿体無い。	・ 同上	・ 自由に話を聞きに行く／体験する	
宿泊	・ Jヴィレッジにて宿泊 ・ 発表の準備	・ Jヴィレッジ	・ Jヴィレッジ ・ 発表の準備	◆ Jヴィレッジにて宿泊 ◆ 発表の準備
説明	・ 二日間の体験を踏まえて、訪問先とのコラボや提案できることを考える。（グループワーク）	・ 懇親会を行いたい（夕食時含め）	・ 夜遅くまで作業したい	◆ できるだけ長時間準備できる場を作る

3日目	Aグループ	Bグループ	Cグループ	話し合いの結果（大筋）
AM	・ グループでの作業時間	・ 個人での作業時間・準備	・ グループワーク	◆ 発表準備 ◆ 発表、帰宅 ◆ 発表の後、懇親会を設けられるかは時間も含めて検討
PM	・ 発表 ・ 帰宅	・ 発表 ・ 帰宅	・ 発表 ・ 帰宅	

● 運営委員会の今後の進め方のイメージ

- 企画案として、今後具体化を進めていく必要がある以下の項目については、今後、運営委員会で具体的な検討を進めていくことを想定。

- ✓ **会議の名称** ⇒ 9月下旬の会議で決定
- ✓ **出合わせたい人（初日のTFDの参加者・2日目の参加者訪問先）**
 - ⇒ ① 9月下旬の運営委員会までに1次リストアップ
 - ② 10月下旬の運営委員会でロングリスト確定
 - ③ 10月～12月にかけて個別交渉、1月中旬の運営委員会でリストや訪問順等の確定
- ✓ **プログラムの詳細（初日のwelcome体験の訪問先、集合地点、宿泊場所など）**
 - ⇒ 10月下旬の会議で議論、11月下旬の会議で決定
- ✓ **アウトプット方法の詳細**
 - ⇒ 11月下旬、12月中旬の会議で議論

【運営委員会の開催スケジュールイメージ】

回	日時	議論内容	共有資料
第3回	9月下旬	・ 会議の名称に関するディスカッション ・ 出合わせたい人に関するディスカッション①	・ 参加者募集状況
第4回	10月下旬	・ 出合わせたい人に関するディスカッション② ・ プログラム案の詳細に関するディスカッション①	・ 参加者募集状況
第5回	11月下旬	・ プログラム案の詳細に関するディスカッション② ・ アウトプット方法の詳細に関するディスカッション①	・ 参加者募集状況
第6回	12月中旬	・ アウトプット方法の詳細に関するディスカッション②	・ 参加者募集状況
第7回	1月中旬	・ プログラム全体の確定 ・ 当日の役割の整理	・ 参加者リスト ・ 当日マニュアル素案
第8回	2月上旬	・ 当日の動き等の最終確認	・ 当日マニュアル最終版

● 企画案・運営委員会に関する確認・相談事項

確認・相談事項 1

- ・ 運営委員会での議論状況に関する感想、企画内容に関する意見、今後の委員会のスケジュール等について、忌憚のない意見をいただければと思います。

確認・相談事項 2

- ・ 運営委員会では、今回の企画を一過性のものとするのではなく、**プログラム終了後にも、継続的に関係人口を生み出すような事後展開を行うこと**が指摘されています。
- ・ **取組としてどのようなことが考えられるか**、意見交換を行いたいと思います。

(参考：第1回意見交換会や運営委員会で挙げられた意見等)

- 「ふくしま愛」を示したスケッチブック、ポスター、写真について、**Jヴィレッジのホームページ上に専用ページを作り、継続発信**
- **愛ポイントの通帳**のようなものをつくり、県外からの訪問者がポイントをためられるようにする。そして、**訪問した際の何らかのインセンティブ**につなげる
- 愛ポイントを集計して、**旅行者・福島を訪れた人の声**が感じ取れる**旅行コースを作成**する
- **大学の単位との関連**をもたせて、継続性を持たせた取組とする
- **地域おこし協力隊や地元自治体との連携**をさらに図る

● ふるさとTFDの実施について

- ふるさとTFDについては、第1回意見交換会において、各団体でのイベント等での実施を依頼

【復興庁】

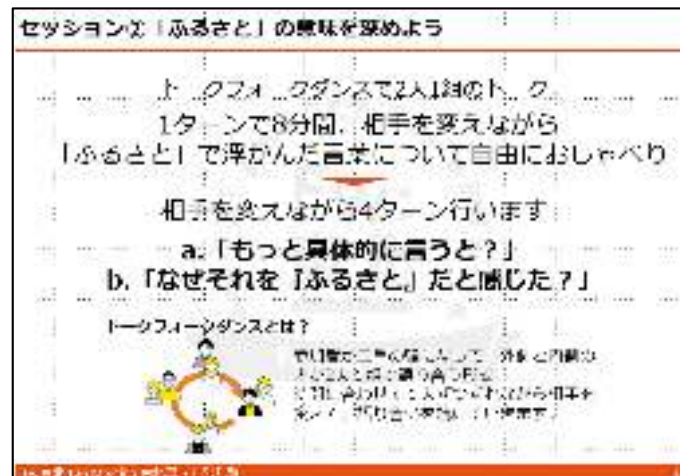
※第1回意見交換会資料より抜粋(一部状況更新)

- ・ Fw:東北fanMeetingに参加した被災3県の移住コーディネーターにふるさとTFD実施の働きかけ
- ・ 宮城県・岩手県での意見交換会において、各副代表団体にふるさとTFDの実施マニュアルを共有
- ・ 一社 移住・交流推進機構 (JOIN) の移住フェアでふるさとTFD実施に向けて調整中 (来年1月見込み)

【福島大学】

- ・ 学生向けにふるさとTFDを開催

- 実施マニュアルについては、本日の資料として改めて共有(資料2-1)。
また、協議会HPにも専用ページを作成予定。引き続き、各団体での実施について、ご検討をお願いします。



● 参加者募集について

- 本年度の企画への参加者募集について、第1回意見交換会では、副代表団体が開催するイベントで、「体験の提供」と「話し合いの場」の参加者募集について依頼。
- 現在事務局において、募集リーフレットを作成中。**9月下旬に共有予定であるため、各団体からの積極的な広報、他イベントの参加者への声掛けをお願いします。**

＜チラシ原稿案＞

[illegible][illegible]

參考資料

● 3. 本年度の実施方針

参考：令和5年6月7日
第1回意見交換会 資料1

今年度の取組に関する議論内容（令和4年度第3回意見交換会）

○ 今年度の取組は、3グループの提案の実現に向けて意見交換を実施することで合意

- ✓ どれか1つを選ぶのではなく、それぞれの案の視点や想いを活かせる方法で実現を目指していく。
- ✓ ふるさとTFDは、復興庁、Jヴィレッジや大学等のイベントなど様々な場で試行。
- ✓ 昨年度にプログラムの提案を行った学生・社会人には、今年度も引き続き何らかの形で関与してもらいたい。



● ふるさとTFDは、復興庁事業（Fw:東北 Fan Meeting）で試行。

試行結果を踏まえたひな型を各団体に提供、各団体で試行実施。

● B・Cグループの提案は、「体験」と「話し合いの場」に分解。

「体験」は各団体等が提供し、その参加者を軸に「話し合いの場」への参加を呼びかけ。

● 昨年度参加者を巻き込んだ運営委員会を設置。具体的なプログラムを検討。

● 4. 意見交換会・実践の場のスケジュール案

参考：令和5年6月7日
第1回意見交換会 資料1

